

Y I A 会員だより 2023年8月号

発行；吉野川市国際交流協会・広報部(Tel22-2271,Fax22-2270)

第224号 ホームページ URL <https://yia2020.net/>



【8月以降の活動予定他】

- ◎ 阿波踊り 8月16日(水) 17:30~18:30
集合時間と場所：16:30 文化研修センター
- 8月20日(日) 13:00~14:00
集合時間と場所：12:00 文化研修センター

- ◎ 川島高校 Summer Challenge 8月17日(木)
10:00~11:30 場所：徳島県立川島高校
- ◎ ブドウ狩り 9月3日(日)13:30~
場所：やまかわブドウ園
集合場所と時間：キョーエー山川店 13:00

◆吉野川市日本語スピーチコンテスト 2023

平田 仁子

7月16日、吉野川市、阿波市の日本語教室の生徒による日本語スピーチコンテストが行われ、約50名が参加しました。

発表者とタイトルは次の通りでした。

発表者	所属企業	タイトル	
張 培芳 (チョウ バイ ホウ)中国	原田食品	私の生き方が変わった一言	
李 寧 (リ ネイ)中国	原田食品	日本に来て不思議に思うこと	
フラディナ ブドリ (ナナ)インドネシア *	原田食品	家族って何だろう?	
ファミラ ブドリアディ (エラ)インドネシア *	原田食品	怖いというイメージを持つのはなぜ?	
チャン ティ トウヒエン (トウヒエン)ベトナム *	鴨島病院	ひとの笑顔を見ると幸せ 日本で介護の仕事を続けたい	
アルス セプティ アウン (セプティ)インドネシア *	水島プレス 工業 (阿波市)	気になる気	

6分以内の発表でしたが、皆さん仕事をしながら、一生懸命練習を重ね、すばらしい発表内容でした。

審査員は、真鍋憲昭さん、藤本功男さん、瀬尾規子さん、岩谷奈緒さんの4人が担当されました。4人の審査員は、スピーチの内容、日本語力、表現力について審査し、

- ・どの発表者も努力の跡がよく見られ素晴らしいスピーチだった。
- ・発表の内容がよく工夫されていて、日本語の発音も正確で、とてもわかりやすかった。
- ・顔の表情、手や体全体を使ったジェスチャーなど、豊かな表現力で、訴える力があつた。

・日本人が気付かないことを外国人の視点で教えてくれた。

などの講評をいただき、絶賛されました。

また、発表の後、アトラクションがあり、ナナさん、エラさん、ディアさん、アミさんの4人がインドネシアの各出身地の伝統の踊りを披露。参加者の皆さんも素晴らしいダンスに心を惹きつけられました。

なお、ナナさん、エラさん、トウヒエンさん、セプティ君が7月23日に開催された徳島県日本語弁論大会に出場しました。



徳島県日本語弁論大会が開催され、YIA 日本語教室からはエラさん、ナナさん、トゥヒエンさんが参加しました。当日の感想を川村さんに投稿頂きました。

◆徳島県日本語弁論大会の感想 川村 雅子

7月23日、徳島県日本語弁論大会を聴きに行ってきました。演者は、留学生や海外から来日されている技能実習生などでした。在日期間は5か月から4年2か月と幅があり、発表内容もコミカルなものから、聴いていて身につまされるものまでバラエティに富んでいました。どなたの発表もよく練られた内容で非常に聴きごたえがあり、もっと早くにこうした機会を得ておくべきだったと悔みました。

あまりにもたくさんの刺激を受けたので、端的に感想を述べることは難しいのですが、特に強く感じたことは、「どの人も自分の置かれた状況の中で、周囲の人を観察したり、ぶつかったり、理解しようとしながら、自分のあり方を試行錯誤されている。その過程で、自分の思いや周囲へのメッセージを発信してくれている



んだなあ」ということでした。彼らの声を受けとめて、これからの自分の行動に反映したいという、受け止める側の思いを持つ一方で、彼らと同じ立場として、「私はどんなふうに周囲とかかわって、どんなことを周りに伝えているのだろうか？ 相手は私の言動をどう受け止めているだろうか？」と考えさせられました。慣れた環境で過ごすうちに鈍っていた感覚が、異文化で暮らす彼らの話を聞いて再び研ぎ澄まされたように思います。今回、普段の自分を見直す貴重な機会を得たことに感謝します。来日された皆さんの毎日が、実りあるものがありますように。

◆YIA グローバルセミナー

「第1回 イギリスあれこれ」 瀬尾規子

今年度、新たな企画として「世界を旅するグローバルセミナー」を7月29日午後、文化研修センターで開催しました。

第1回は「イギリスあれこれ」と題して、鴨島町在住のトランさんに講演していただきました。参加者は18名で、英語に関心のある方が多かったので、講義は英語で行いました。

トランさんは、香港で生まれ、マンチェスターで育ち



ました。両親はベトナム出身ですが、家族はみんなイギリスに住んでいます。イギリスの歴史・観光・文化・皇室などについて、スライドで紹介していただきました。

講義の中ほどで質問タイムを作りました。「トランさんの英語はとてもわかりやすいですね。どうしてですか？」と質問したら、「マンチェスターの英語はアメリカの英語に近いから」というお返事でした。

「香港で生まれて、どうしてイギリスに移住したのですか？」という質問には、「香港がイギリス領だったのですが中国に返還されることになり、両親は今がイギリスへの移住のチャンス！ということでイギリスに移住しました」というお答えでした。

また、両親はベトナムで貧しく、勉強が十分できなかったもので、イギリスで学びたいというのも移住の理由だったそうです。因みに親戚は世界各国に住んでいるそうです。



後半は、マンチェスターのスラングのクイズがありました。知らないスラングがいっぱいあり、勉強になりました。トランさんが明るくアクティブな方なので、イギリスを旅した気分になりました。

次回はALTのロビンさんを予定しています。お楽しみに！！

◆日本語教室の受講生らが茶道のお点前を披露

萩森 健治

日本語教室で学ぶ受講生が約1年前から茶道を習っています。指導するのは「茶と菓の集 FRIENDS 会」の代表で茶道師匠の佐藤眞由理さんです。佐藤師匠とYIAが共催で7月9日（日）に「七夕茶会」を開催。日ごろからお世話になっている日本語講師や受講生の

仲間の皆さんが招待され、茶道のお点前をいただきました。

茶会は文化研修センターの和室で行われました。茶道の指導は佐藤さん

夫妻と茶道講師計7名。お点前を披露したのは、ハンさん、タムさん、タオさん、ホックさん、ホアンさん、フィエンさんの6名。お茶会には合計40名が参加しました。

まず佐藤さん夫妻が、開会の挨拶と「七夕茶会」の趣旨を説明。その後、茶道受講生6名が2名のペアを組み、1名の師匠の指導を受けながら客2名に対して薄茶のお点前を披露しました。1組目終了後に新たなペア2名に交代し新たな客2名に同様に薄茶のお点前を披露。この動作を複数回繰り返して、参加した客全員に薄茶を差し上げました。

また、参加者は七夕飾りも作りました。配られた短冊に願い事を書き用意されたササに結びつけました。参加した茶道の受講生は、少し緊張しながらも初めて「お茶会」でお点前を披露しました。客として参加した外国人受講生らは、ほとんどが初めての体験でしたが、薄茶の味が美味しかったと講評でした。



指導された師匠の皆さん